

I. 国別行動計画とは

- [国別行動計画の一覧](#)
- [日本の国別行動計画（英語版）](#) を例に

II. 経緯

- 人権分野における国別行動計画の例
 - 1993 年 [ウィーン宣言および行動計画](#) パラ 47, 71
- ビジネスと人権分野における国別行動計画
 - [A renewed EU strategy 2011-14 for Corporate Social Responsibility](#) (2011), para. 4.8.2.
 - [Report of the Working Group on the issue of human rights and transnational corporations and other business enterprises](#) (2012), para. 68 (“for example, by encouraging...”)
 - [Report of the Working Group on the issue of human rights and transnational corporations and other business enterprises](#) (2014)
 - ◇ パラ 2 目的
 - ◇ パラ 6 内容
 - [Guidance on National Action Plans on Business and Human Rights](#) (2016)
 - ◇ “An evolving policy strategy developed by a State to protect against adverse human rights impacts by business enterprises **in conformity with the UN Guiding Principles on Business and Human Rights**” (強調追加)

III. 策定過程

- 2016 Guidance の“3. Guidance on NAP process”
- [日本 NAP の策定経緯](#)

IV. 比較

[日本](#)と[ドイツ](#)の国別行動計画を比較する。講義までに、以下のポイントについて両者を比較して違いをリストアップしてくること。

- 国家の義務
 - 日本 第 2 章 (1) 横断的事項、(2) 人権を保護する国家の…… (pp. 10-22)
 - ドイツ IV. 1. The State Duty to Protect (pp. 11-19)
- 企業の責任 (について国家がなすべきこと)
 - 日本 第 2 章 (1) 横断的事項、(3) 人権を尊重する企業の責任を促すための政府による取組、第 3 章 政府から企業への期待表明 (pp. 10-18, 23-25, 30)

- ドイツ III. Federal Government expectations..., IV. 2. Challenges in Corporate Practice, 3. Available Means of Practical Implementation Support (pp. 7-10, 19-24)

- 救済へのアクセス

- 日本 第 2 章 (4) 救済へのアクセスに関する取組 (pp. 26-28)
- ドイツ IV. 4. Guaranteeing Access to Remedies and Redress (pp. 24-26)

比較に当たって、以下に留意すること。

- 手法・視角・思想に違いはあるか。
- 扱われている事項にどのような違いがあるか。その違いは、両国が置かれた状況の差で説明できるか。
- それぞれの長所および改善点は。

参考

- [デンマーク人権研究所が作成している NAP の比較サイト](#)

以上